

市民のチカラ

市内で活躍する
さまざまな団体をご紹介します

武蔵野市スポーツボランティア「HANDS」

「支える」スポーツ参加で アスリートと地域を盛り上げる

「HANDS」の轟菜穂子さん(右)と、事務局の「武蔵野文化生涯学習事業団」河内幸子さん(左)



「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催を機に注目を集め、その活動が全国各地に広まりつつあるスポーツボランティア。市でも、健全者・障害者を問わず誰もがスポーツに親しめる環境づくりを目指し、2018年にスポーツボランティア「HANDS」を立ち上げました。現在、高校生から80歳代まで約40名が同組織にボランティア登録をし、市内で開催される競技大会をはじめ、スポーツ関連イベント、スポーツ教室で会場設営や受付、誘導などの運営サポートを行っています。

学校図書館で司書を務める轟菜穂子さんは、2020年から「HANDS」のメンバーの一人として活動に参加しています。「学生、会社員、主婦とそれぞれの生活スタイルがあるので立場によって活動頻度も異なりますが、無理をせず、その人の都合に合わせて気軽に関わられる雰囲気と体制がいいですね」と「HANDS」の居心地の良さを教えてくれました。自分のペースで参加できることは、ボランティアを長く続けていくうえで重要なポイントといえますが、活動そのものも大きなモチベーションになっているそうです。「アスリートの放つオーラや観客の盛り上がり、そして何より競技そのものの白熱ぶり・楽しさを間近で感じられるのはワクワクしますし、自分にとっても良い刺激になっています。それは障害者スポーツも同じで、彼らの鍛え上げられた体と身体能力、不自由な感覚をほかの感覚で補いながら競技に打ち込む姿には毎回心が揺さぶられます。スポーツボランティアというのには支える立場ではありませんが、実は私たち自身もボランティア活動を通して学ぶことや得るものがたくさんあります。そういった気付きや発見があったことに感謝しています」とうれしそうに話してくれました。

武蔵野市スポーツボランティア「HANDS」

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、武蔵野市がスポーツボランティア組織として設立。現在は武蔵野文化生涯学習事業団が運営を引き継ぎ、市内で開催されるスポーツイベント「Sports for All」をはじめ、パラスポーツの各種競技大会など、幅広くサポートを行う。ボランティアメンバーの登録は、市内在住・在勤・在学の高校生以上(市外の方は応相談)。



「サンタさんと親子運動会」では受付や競技のサポートなどを行っています



武蔵野プールで開催された「ちよつとカヌー」。東京女子体育大学カヌー部の皆さんとともに体験をサポート